公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○ 保護者評価実施期間	A	和7年 2月 3日	~	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	Î	↑ ↑和7年 2月 3日	~	令和7年 2月28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	れる漢字の読みができる等サポートできることが多岐にわた る。	いる。学習は個別に対応し教材も一人一人の理解度に合わせ用 意している。ソーシャルスキルトレーニングの教材も手作り適 正に合わせた療育を意識的に行っている。	に取り組める。大きく体を動かすことができない分手先の作
2	習支援の教材を用意したり、心理士と保育士の資格を持つ者が SST教材を考えるなど役割分担が自然とできている。	ドライバーとして採用された人員も5年を経過し指導員として 利用者とかかわることができるようになった。それぞれの社会 経験から利用者に対する接し方や話の内容も多様化できて利用 者のみならず職員間でも学ぶことが多いと感じている。それぞ れのスキルを表出させやすいようなフレキシブルな環境は意識 して気に用意している。	退職が近い職員に対してもつながりを持てる仕組みを作りボ
3	日々の振り返りの共有は全職員に共有しており問題解決の手法 も迅速に話し合える環境があると感じている。挙げられた意見 については常勤、非常勤にに関わらずそれぞれの意見を言い合 い改善に努めている。	アンケートの集計も非常勤職員を交え行っており意見を述べや すい工夫をしている。	常勤、非常勤に関わらず研修に参加する機会を設け、より高 いスキルアップの意欲を持てるような環境をさらに充実させ る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	比較的年齢層が高く定年を迎えるタイミングが同じころに来る 職員が複数名いる。若手の育成には力を入れているが中堅となる職員が少なく世代交代の時期に体制を維持しやすい工夫が必要だと感じている。	社会的な課題でもある働き方の多様性に対応することが難し い。非常勤職員の採用もすぐには見つからない状況があり、タ	人材の育成は急務でありそのための研修にも力を入れる必要 がある。また、一人で抱え込まないようチームで動くなど相 談し合える環境の整備も整えていきたい。
2	共働き家庭やひとり親家庭が増え送迎時にお会いできないご家族など対面でのコミュニケーションが取りにくくなっている。 面談の時間も確保できなかったりする過程に対しては電話やメールを活用しコミュニケーションを図っているが細やかな事まで伝えきれなかったり受け取った情報が不確かであったり誤解されることもある。		ご家族には面談の必要性を認識してもらえるよう働きかけ続ける必要性がある。
3		学習支援を希望されるご家族のニーズと思い切り遊びたいニーズをお持つの後利用者の要望に応えるために学習後にはボードゲームなど協力型で楽しめるものやトランプなど勝ち負けのある対戦ゲームなどを行っているが下校時間が学年ごとに違う日には外出までの人員を用意することが難しい	